(一) 第四千七百四十三號 (水曜日) THE KEIJO NIPPO 大正十年一月五日

京城日報

歴史上より見たる朝鮮の統治

文學博士 白鳥庫吉氏談

南方へ漢民族が發展した時代に

は北方に於ては次第に勢力が衰へ鴨緑江の東は濊治の地となり樂浪郡の北東はツングース民族の支配する所となつて居た丁度其時に南方朝鮮は辰韓、馬韓、弁韓の小部落を爲して居ましたがこれ等の地は漢に服せず小獨立國を成して居た又大同江以北の方面に於いても漢民族は遼東の地と連絡が絶へた爲に高句麗が大戰亂となつた爲めである高句麗は契丹を取りました當時の樂浪郡、帶方郡でありますが更に高句麗は發展して南滿洲の地をも取りました是れは南方が衰へ北方人は武勇なる爲であります。三韓は其後變つて辰韓十二國が新羅となり馬韓五十四國が百濟となり弁韓十二國が任那となりましたが任那は日本の治下にあつたのです高句麗の壓迫の爲めに三國共に結合して居ました其頃より新羅、百濟も日本に朝貢したのであります。日本は三韓の依賴に依り高句麗を征めんとした事もありますが歴史は過去も將來も同じことで整理が就くと新羅は大に野心を起しました新羅は日本の勢力を驅逐する爲めに高句麗を利用して大に策を廻らして居た丁度日清、日露の戰爭の起りと同じであつた併し其時には日本の不利でありました百濟は日本を大に賴みにして居ましたが終に任那は新羅が取りまして次いで百濟も併呑して仕舞ました其の後も

新羅は高句麗と日本を利用して

居ました是れ等の時代は支那の南北朝の時であります次に新羅は隋の煬帝の時には又新羅、百濟、高句麗の三國鼎立と爲つて居ました隋唐の時代には朝鮮半島は日本を賴みにして大に好意を表して居ました其時代は新羅は孤立になつて困つて居た當時周囲に信なるものが居て唐の都たる長安に往つて此の儀では新羅は亡びるから唐より救助を・・・ふた茲に唐と新羅の聯合が成立して高句麗征伐の軍を起した併し甘く行かなかつた故に唐は

百濟を攻んとした日本も亦百濟に兵を出したが日本軍は金江に上陸したが此時も日本は不利であつた其後唐は百濟を亡ぼしました新羅には何も與へなかつた新羅は尚北方に高句麗があるから忍んで居た

征め大同江の南は新羅の有こした茲に初めて朝鮮半島の統一が出來たのである、其頃は渤海の地を渤海、契丹、黒水、女眞と云ふ其他諸國(サカレンノアイヌ)等も唐に朝貢する様になつた則天皇后の時には渤海と云ふ國を建設したが渤海國は後に唐に反して獨立しました

唐は其時新羅と結んで南方より

征め唯今のハバロフスク黒水マツカより北の方面を征めました其時代は日本の

本年の株界如何

日本興業銀行調査課 小野英二郎

◎本年の株界は一言を以て蔽へば、大體財界整理時代の、特徴を現すものと觀るべし。蓋し昨春の財界動亂は、各種の救濟方法が、漸次功を奏せる結果、人心頗る安定したるも、なほ戰時の好況に乘じ、濫興せられたる諸會社は、未だ整理全からず又物價の騰貴に際し、思惑買をなしたる滯荷は、未だ處分を遂ぐるを得ず。之等の滯荷或は有價證券を擔保としての貸出は、未だ回收完了せず。殆ど整理を要するものは、今後の懸案に殘したる儀、本年に持越されたれば、此の整理問題は、今年の大使命なり。

◎從つて本年は、整理及び整理後を杞憂する結果として、人心一般に警戒し、生產は手控へられ又財界は減退し、貸出の警戒と共に資金の需要縮少し、一方預金は增加して、銀行手許は潤澤を加へ、之が利殖の必要上、短期資金は供給超過し、コールの如きは低利となるも、なほ長期の貸出は警戒して、長期金利は昇騰し、既に昨年發生したる、短期と長期との利鞘は、愈開きを大にすべし。即ち潤澤なる資金も、商業資金に向けられて、工業資金は窮迫し、利廻高利を支拂ひて、企業を試む能はざれば、株式投資の氣勢は揚らず株界の不景氣は、なほ繼續すると觀るべし

◎之を海外の狀勢に見るも、

負債支拂日近し

各國財政と新年來

陸軍大異動

陸軍大更迭は新年早々發表さるゝ事となりたるが其の大頭株の更迭を漏れ聞くに浦汐軍司令官大井大將は愈軍事參議官に補せらるゝ事となり後任には立花關東軍司令官轉補され關東軍司令官の後任には第一師團長河合中將が赴任し第一師團長には目下西伯利に出征中の第十三師團長西川虎次郎中將轉任する事と爲り居れり而して右大更迭は來る六日發表さるべし(東京電話)

越年堅實

中村殖銀理事談

臨時教育調査會 内地委員

六日入城せん

歳晩の鮮銀券

七八聯隊の除隊式

內地に向ふ

附となり長渡少佐の第三大隊長に新補せられたるにつき命課布達式を擧行し更に又邏營に出動し去る二日歸隊したる第三大隊の兵卒除隊式を行ひ堀田聯隊長の訣別の訓示あるたるが午前九時半より除隊兵卒等は給與されたる除隊服と着替し欣然として

御用始

京城現株發會

金融成績良好

社頭曉

各地の元日

群山

開城

羅南

四平街

新義州

吉林

光州

春川

奉天

撫順

大連

清津

未來ある朝鮮の遞信事業

竹内局長談

南浦漁業狀況

齋藤總督招宴

山縣長官東上

人事消息

公會私會

寸言

解放 新年號

明治維新の新研究

鬪爭の心理

女性の反逆

改造の意義

國家社會主義

古事記神話の地理的研究

蝙蝠日記

創作九篇

大阪仕入案内

水龍天に躍る

寒風肌を刺す四日朝 本社前廣場に於ける 消防出初式

新春の三日は穩かに過ぎたが四日は前日に勝つて寒風肌を刺す許りの中に吉例に依り京城消防隊組の出初式を

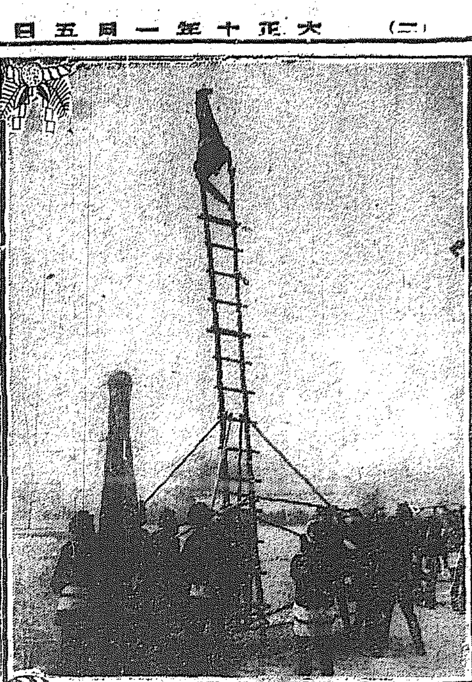
本社前廣場 で擧行した午前八時小熊消防主任[illegible]に集合し常備消防隊は[illegible]城壁に添ひ龍山京城兩消防組は本社に向つて右に展開して居た、天幕内には工藤知事千葉三部長齋藤府尹大橋大佐市内各署長其他官民の多數は裸の炭火を圍んで待ち受ける廳で午前九時を報ずるや氣を付けの

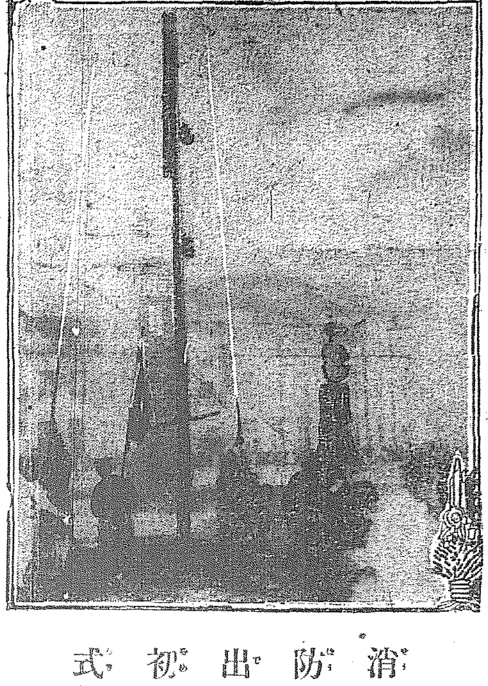
喇叭は響き 渡つた工藤知事は小熊警部同乘自動車に千葉三部長高德宮署長は乘馬各署長は徒歩で第一中隊から順次閲し終つて復席するや小熊警部の號令一下京城龍山消防隊組の梯子乘りに移り各組共放れ技を演じて觀衆をハラ／＼させした次ぎに演習開始の喇叭と共に機械ポンプ組の活動蒸汽ポンプの威力腕用ポンプ

竿頭に吊し た鬼灯提灯を射落すのは白龍の玉を爭ふ態であつた其時中央の塔から白煙濛々と立昇る見るや蒸汽ポンプは塔に向つて放れし初めたので中空には虹を描きて美觀を呈した。塔上部の圓塔が大半燃け落ち白煙の中から忽然と怪物が現れた同時に

演習中止に よつて白煙の消え行くと共に先きの怪物は鷄に因んで鷄の造物で啣に雞林安寧の大旗を啣へて居た此時十一時二十分に閣んで居た群衆からは一齊に拍手が起つた一同復席と同時に集まれの號令で天幕の前面に整列すれば工藤知事から十年勤續者及其他に授賞し近く訓示する次に千葉三部長の訓示齋藤府尹の授賞赤池局長昌德宮からの

酒肴料目錄 授賞隊組長列に復したる時指揮官の令に依り一同敬禮して式を終へた時に午前十時それから喇叭の合圖に依り隊伍を整へ總督邸知事三部長邸に廻禮して解散した





消防出初式 (上)梯子乘 (下)放水

總督、總監 李王家訪問

四日、總督府御用始式を終へた齋藤總督はフロツクコートに絹帽姿に新春の喜びを頰に浮べて守屋秘書官、藤波通譯官を從へて午前十一時三十分自動車上の人となり水野政務總監も同様自動車で總督に尾し總督府を出た。此一行は翠深き昌德宮に參ぐら新春の御喜びを傳へて李王家を訪問したのである。李王殿下は御喪中の事とて麻の龍袍に喪服姿にて總督、政務總監と宮内の樂善齋別室にて御對面年賀の挨拶を交された挨拶であつた。斯て總督政務總監一行は自動車を連ねて李堈公殿下を御訪問、年賀の挨拶を交されたと

中溝男令息 列車から落ちて 慘死

東京府下荏原郡大崎貴族院議員海軍中將男爵中溝德太郎氏の令息東京硫酸株式會社々員中溝緊氏(三)は二日夕澁谷驛にて進行中の列車より轉落し慘死せり(東京電報)

侍天教本部では 教主制廢止 他の各派でも論議の種とならう

既に屢次報道せる所であるが右で任ずる如き悖德行爲の前例は絕無であるに比し東學各派のみが之を僭稱するは不可解なことであつたのであるが今回に關し從來宋秉畯伯が統率し來た侍天教本部では今回組織を改め教主制を廢すると共に大に教勢擴張を成すに成り今回之を發表した。此の教主制廢止の聲明は

東學各派に 取つて可成りの大問題で他の各派においても論議の種と成るともあらうと思はれる。本來天道教、侍天教總部や且又同本部では總て水雲大神師を第一と稱し海月神師を第二世と稱し各派共孫秉熙を第三世と稱し宋秉畯等は何れも第三世として教主なる稱號を用ゐて來たのであるが

始祖第一世 の教義を講述する門下後弟の身で自ら第二世と呼び第三世と稱するは甚だ僭越の沙汰で本來有るべからざる事である。佛教でも耶蘇教でも後世一門下が自ら教主を以て任ずる如き悖德行爲の前例は絕無であるに比し

宋秉畯伯 は此邊に氣付き斷然教主を辭し又侍天教本部では爾後絕對に教主制を廢し教徒統一の爲め單に教長なるものを存置して教務を執行して行くさうである。現在天道教を始め各分派では水雲大神師が得道せる四月五日の記念日を始め其の誕生日、受刑日、第二世海月神師が傳統せる記念日及び其の誕生日並に受刑日、第三世即ち孫秉熙、金演局氏等が傳統せる記念日並に其の誕生日共他種々雜多な記念日があつて教徒平常一定の誠米を納めつゝある外記念日毎に

特別の寄附 を命られ區長又は大區長の如きは其の度毎に數十圓又は數百圓を投じて來城し各々祝賀の意を表して居るのであつて、東學分派の教徒が實際に窮乏しつゝある金額は非常に多額に上るのであるが從來の如く各教で教主制を存置し第三世以下後世に第四第五の教主を設けて行くとすれば

數十百年後 は教徒は毎日お祭りの日を送り百姓は幾ら稼いでもお祭費と誠米の負擔で貧乏して行かねばならぬ事になるのである。故に今回宋秉畯伯の教主辭退と同教本部の教主制廢止は東學から見れば頗る大問題であつて他派でも之を模範とし早晩教主制廢止の已むなきに至るであらう

九州一周 耐寒飛行 十三日より

大刀洗航空第四大隊は嚴寒の際に於ける高層飛行の搭乘者及飛行機に及ぼす影響研究のため九州一周大飛行の壯擧を企て來る十三日より實施する筈なり(福岡電報)

鮮人工夫等 數百名の爭鬪 南洞面鹽田工事場にて 輕傷者十三名を出だす

一月一日午前富川郡南洞面に於ける總督府專賣課鹽田工事場に於て鮮人工夫百餘名爭鬪を起し

鮮人十三名 の輕傷者を出だしたる椿事あり同所は開鑿の請負に係り内鮮人約六百名あり一月二日正午頃富川郡文鶴駐在所へ訴へ出でたる者の言に依れば同所に於て數百名の人夫爭鬪し内地人三名鮮人一名[illegible]

殺害せられ たりとの事に同駐在所より直に本署に報告あり仁川署は俄に活動を開始し牧田警部以下武裝せる警官五名自動車にて現場に急行したるが事實は殺害に非ずして鮮人工夫十三名の

輕傷者を出 だし居りしを以て同行の久米田警察醫の手當を受け重傷と認むる者も非[illegible]

百餘の人夫

[illegible]ざりしと原因は元日[illegible]何れも飲酒し或は賭博[illegible]たる結果口論を初め[illegible]なりて此の騷動を惹起[illegible]すやと云ふ其後平穩に[illegible]不安の恐なし[illegible]

撫順に牛疫

撲殺十一頭 [illegible]

面長を傷く

[illegible]

愛らしい春の音信

本社斡旋の下に開かれた 内鮮兒童親交の路

我社は前號所報の如く内鮮融和の根本義に深く／＼喰入りたい努へから之まで殆ど忘られてゐたかの如き内鮮兒童同志の美しい交りを結ばしむる爲め先づ第一に下關支局と聯絡を執り同地遂治尋常小學校兒童と京城府内於義洞、水下洞其他各普通學校兒童との間に立つて斡旋に努めた結果清い心から認めて交換せられた愛らしい手紙の數は相合せて一千通の多數に上つてゐる、斯して尚今後東京大阪は固より内地各地と朝鮮各地の學校毎に此兒童との親交の路を開き第二回からは各自思ひ／＼に一層親密な交際を重ぬるに至る事は左に掲ぐる手紙の文面に見るも明か[illegible]であらう、若よ、願もしい彼等の心を。

謹んで新年を御祝ひ申ます。あなたと私は明治四十三年に親しく姉妹となりました。そのあなたの土地は白兎のやうな美しい土地であります。讀み方で習つたあの白い着物を着て學校に行かれるあなたがたの姿が見たうございます。さようなら

下關市立遂治尋常小學校 第六學年生 奧島サツキ

李昌順樣

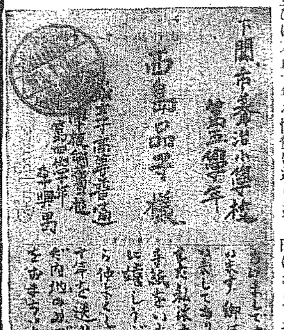
明けましておめでたう御座います御やさしい御はがき下さいましてほんとにうれしうございました内地のことを見聞する度におあひしたいと思つてゐました所はさうくはなれて居ります

[illegible]かほんとうの姉妹ですね、あなたのいはれる通り冬は寒いのですもう雪が降つて大へん寒う御座いますどうぞ一しよに仲よく遊んでゆきませう

京城女子高等普通學校 四年生 李[illegible]

奧島サツキ樣

皆さんと同じに樂しい年を迎へた事を私は喜んで居ります。下關から[illegible]た方のことを思つて居り[illegible]互ひに大正十年を愉[illegible]



[illegible]せうね。

下關市立遂治小學校 第五學年女 西島品子

李興男樣

あけましておめでたうございます御年始狀を下さいましてありがたうございました私はあなたから御手紙をいただいてほんとに嬉しうございます之から仲よくして樂い大正十年を送りませうねまだ内地のめづらしいおたよりをおまちいたして居ります

京城女子高等普通學校附屬 第四學年 李興男

西島品子樣

明けましてお目出度うございます。あなたに手紙を差上げることはまだこれが初めてであります。朝鮮の冬は大變寒いからオンドルを用ふると國語でならひましたが此頃は盛にオンドルをお用ひでせう。私共もあなた方もりつぱな日本女子ですからこれより手を相握り女子の本分を盡しませう。かしこ

下關市立遂治尋常小學校 第六學年女 竹中愛子

李玉男樣

明けましてお目出度うございます私の學校は京城にある於義洞公立普通學校の女子の第四學年であります。もう大正九年がゆめのやうにすんで大正十年となりましたあなたから手紙をいただいたことは初めてでありましたここは大變寒いですがそちらもやつぱり寒いでせうこんな寒い時にあなたも私も一そうべんきようしてともに大日本帝國の女子の本分を盡しませうさようなら

朝鮮京城於義洞公立普通學校四學年女 李玉男

竹中愛子樣

京取の初會 相場は穩か

京城株式現物取引市場の初會は四日午前十一時から初めた定刻に先立ち釘本社長の挨拶あり社長は峰尾進兩取締役を紹介し續いて峰尾氏より一言就任の趣きを述べ川崎仲買副委員長の答辭あり賑やかな手打式を終ると小宴すぐ京取株の立會に移る舊臘まで十五日を一區切としたのみ新春からは今週中と來週中の二本に分けたので立會も複雜を加へ時間も要る尤もそれだけ株式賣買の思惑はヤリよくなつてゐる相場は京取二十二圓六十錢から三割仁取百四十五圓から五圓七十錢、鮮銀、殖銀など堅實株は何れも小強く相場は穩健との評だつた尚ほ初會の當日とて參觀席には株式賣買に趣味をもつた連中が一ぱい詰まつてゐた

儀式張らずに凝つた意匠の 年賀狀

今年は總じて振つたのが尠い

松の内三日内に屆けられる年賀狀は從來相互間の疎遠を謝し新年の御慶目出度申納めて倚將來にかける交誼を祈ると云ふ一種の儀式張つたものであつたが

最近に到 つて年賀狀は斯うした意味を離れて相互に奇拔な意匠を凝らす傾向をつくつて何處へ行つても賀狀の奇を誇る人が尠くない今、茲に二三の奇拔なものを見ると元山の

石原府尹 が『府勢の一班』と見出して人口、氣候、貿易其他を六ペタで印刷してゐる、某普通學校教員は鮮人兒童に彼自身の氏名何年級等を署名させて代筆させたものもある、其他去年十月

戶口調査 を施行された當時の申告書を其儘印刷したもの、長々と一年に亙る過去將來をこま／＼書き連ねたのや共產社會主義の研究を宣言したのもある月並なのになると諷刺に依つて川柳、俳句、和歌(爲にちなんだもの等を

駄句つて ゐるのもあれば『生きてゐるしるしに安い年賀狀』と頗る納まり返つてゐるのもあつたやうだが今年は總じて振つた意匠もないやうだ

死者十二名 正月三ケ日に

他人は御目出度さうに酒を汲み交はして飮めや唄への一月元日から三日迄の間誰も幸福らしい氣分の頂上に踊つてゐる時其反對に不吉な灰色の空氣を吸つて悲しみの絕頂に慟哭した人が京城にも尠くない茲に京城府廳へ屆け出られた死亡屆を見ると一月一日鮮人三名内地人一名一月二日鮮人六名一月三日内地人一名鮮人一名等で其病名別を見ると貧血兼心臟痲痺神經衰弱流行性感冒の腦膜炎肺炎肺結核腸チブス肺病と云つた風なもので頭を緣起でもない病名ばかりであるが人間は相集まつて一人殘らず幸福であられる場合絕對にあり得ないものらしい因に出生屆は三日迄に屆出でたものはなかつた

仁川取引所 初會

零時三十分終了

一月四日午前十一時仁川期米の新市場發會をしたが騰落常なき期米は舊臘二十一圓二十七錢と納會し初立會ひは二十三圓十錢と高値に生れたのより定刻に神部各監査役以下所員一同高野は若松社長加來河野各取締役白に現れ各仲買店主及び代理人亦悉く市場に集まりて祝盃を擧げ新市發會を謹く聽て社長は前年成績優良の三仲買店淺野、今村、廣澤の三氏に對して名譽の賞狀銀盃を交附し年頭の挨拶を述ぶるや滿場割るゝ許りの喝采斯て十一時十分擊柝一聲立會を開始すれば買人氣頗る旺盛と限廿二圓十五錢中限二十二圓丁度と生れ新市三圓限は二十二圓十錢の高値に生れ新春勞頭の强調に人氣沸騰したされで各節は道に波瀾なく午後零時三十分芽出度く發會を終へて拍手の裡に散會した(仁川電報)

老婆電車で 重傷

二日午後六時五十分頃東大門行電車第八〇號が龍山漢江通り八番地先を疾走中前方より一人の内地人老婆がノコ／＼と線路内を步行し來り遂に電車と衝突し左右の兩足を切斷され無殘の重傷を負ひ鐵道病院に舁き込み目下加療中なるが被害者は漢口通り十三番地久保田三吉母小糸當(六十)にて生命危篤なりと

魚商紛擾解決 龍山の

水產會社の仲買人組合と公設市場の藤川商店が些細の行き違ひから睨合うて居つたが川田氏の仲裁で年の新まると同時に圓滿に解決を告げた

府内の初火事

二日午後五時市内大和町三の八二京城俱樂部大和町支部から發火したが大事に至らず消し止む原因は暖爐の過熱から損害約百圓▲同日午後十一時頃鍾路五の二四城劉某方から發火即時消し止む原因の破損から損害五圓位の見込

○簿記講習院擴張 宋延植、姜信文氏等が經營しつゝある京城簿記講習院にては從來鮮人のみを教授し來りたりしも今回時勢の趨勢に鑑み特に午後部を開放し内地人生徒を收容し國語に熟達せる朝鮮人を以て教授する事となり正月十日より新學期を開始すべく大阪屋書店々員等多數入學する由なるが朝鮮人私立學校にて内地人生徒收容の新例を開ける新しき試みなりといふべし

○丁子屋の汁粉デー 本日午後二時より南大門通丁子屋に於て救世軍の育兒ホーム兒童の爲お汁粉デーを催して救世軍小坂石島さんが出席して一同神の御惠みを感謝した

訂正

三日附本紙寫眞說明中本誌を訪れた初荷は上圖は南大門通り三丁目雜貨染料商玉植京城支店下圖は太平通り二丁目穀類貿易商常磐商會に付訂正す

演藝

▲浪花座 二の替り▲前狂言、鎌播州皿屋敷、大序より仇討迄▲中狂言『義士外傳土屋主税』大高源吾之傳▲切狂言『曾我之對面』▲主なる役割、播磨守、土屋主税、曾我十郎(嵐信藏)、新三郎、大高源吾(中村時松)、家老三太夫、寶井其角、曾我五郎(中村興三)、おたき、おその、大磯とら(松本鶴枝)、青山鐵三郎、其月、朝比奈(阪東調之助)、長五郎、工藤祐經(中村玉六)▲話劇 三の替り▲一番目喜劇『粹な旦那』二場▲二番目社會劇『玉の輿』三場▲四番目『影法師』二場▲主なる役割、會社員月比、山田屋久兵衞、立花、支配人、番頭新七(金樂)紳士白川、上村先生、片桐正一(カオル)百合子、花奴、お花、須磨子(松子)車夫留公、百姓喜助、金貸石田源助(一馬)

謹賀新年
安東縣 滿鐵商事部 販賣課出張所

木材貿易 三井保險取次
安東縣 此田榮太郎 電話長四三二番

今曉弊工場一部罹災の際は早速御駈付け御盡力被下難有奉鳴謝候混雜の際尊名伺漏れも可有之乍略儀以紙上御禮申上候也
一月三日
仁川萬石町 齋藤精米所

全羅北道評議員 全州面協議會員 全州大正町
辯護士 山田彥光 電話五十番

新年號 農業世界
大正十年の劈頭に際し土地利用の矛盾を說く 川瀨善太郎
農村の在鄉軍人諸氏に告ぐ 山梨半造
農村社會問題としての大地主と小作人 永井柳太郎
我國の養鷄事業 月田藤三郎
特別附錄 冬期の副業 『養兎』外九種
驚歎すべき米國の大灌漑 阪本五城
農界の偉人 佐藤信淵翁と其シベリヤ經營 菅龜太郎
日本全國 公園行脚記 野間守人
講談 田沼の智惠袋 神田松鯉
●鶴の話 ●蘭貢米 ●日本の矮鷄 ●朝鮮の白菜漬 ●農業上鳥類の利用 ●朝鮮の小作習慣 ●カメロン氏の土壤 ●溶液論 ●三河萬歳 古橋
定價四拾錢 博文館

國語及朝鮮語のため
編修官 文學士 小倉進平著
菊判總クロース金文字入 用紙上質 頗美本
定價三圓五十錢 送料十八錢
朝鮮語學界の權威 小倉先生の新著

朝鮮の匂ひ
總督府鐵道部長 天民和田一郎著 挿畫 久保田天南畫
朝鮮に造詣深き著者が職務以外に朝鮮の事情を汎く深く研究せし感想に基き朝鮮の色彩を描く
痛切な觀察と濃艶蜜の様なローマンス洗練された紀行文と悲憤な詩、瀟洒な俳味と嬌趣な情歌、慣習や迷信と經妙な風刺、歷史と宗教、稜々たる俠骨と熱血の記述、等流暢な文章、綴られて天南畫伯の流麗なる挿畫が各所に點綴し光彩を添ふる
總クロース金文字 挿畫四十餘コロタイプ四頁 用紙上質三六版四百餘頁
定價 二圓五十錢

朝鮮 中學校 商業學校 高等女學校 高等普通學校 入學試驗問題集
大正九年度 門題入 九十錢 送料八錢
發兌 京城本町二丁目 電話二九七 振替京城二一三 ウツボヤ書籍店
賣捌 大阪屋號 振替京城二五七三 巖松堂書店 振替京城一四五四

……設けられたる東的一場の訓示を與へ同十一時宮……に於ける假想消火演習……町消防詰所樓上に於て新年の祝……の敬意を表せり（仁川）

四人逃ぐ

……内前科一犯六箇月懲役囚尹面天……（二〇）の手錠が外れ其儘光濟院方……日午前三時十分仁川府島石町二十四番地齋藤精米所機關部より失……

仁川の初火事

……火せり損害約一萬二千圓原因……目下取調べ中（仁川）

醉漢の惡戲

……三日午後……醉漢を引捕へ龍山署に突き出……男が美人の女に對して怪しからぬ所爲に及ばんとする處なるよ……なる處より怪しからぬ擧動に出でたるものなりと

小火

三日午後八時頃龍山……が失火原因は家人の不在中……より發火せしものならんと

法學博士江木翼氏試筆

大正九年の財界を顧みて 大正十年の財界を豫想す

京城商業會議所副會頭　釘本藤次郎氏談

[illegible]都は支那の銀塊落の爲め困難なる狀態を脫するは……あらう一般の物價は勞働者の賃銀によりて定まり勞働者の賃銀は米價によりて決定されるのが從來の慣例である故本年二……らは勞働者も財界の狀勢に鑑み稍安價な勞銀にて働くであらうかくて前半期は一般……手許には其仕入品は高價……安價品ありと云ふ狀態で……價も動搖を免れまいや。……安定を得るのは後半期に入つてからであらうと豫想される。最後に一言を要するは朝鮮人問題である之は朝鮮財界と關聯して見逝し難いことである之れを概觀して八年三月頃から九年九月頃迄は鮮人思想界は惡化しつゝあつたが十月に入りて全鮮實業家大會を開會し鮮內各地の狀態の報告を受けて總督府に陳情した結果は鮮人に對しては內地人の誠意ある所を諒解せしめ當局に於ても多少參考とされたる點もあるやにて內鮮融和の上に幾分貢獻したこと信ずる、爾來警備機關は充實され警官の素質も改善され思想界の險惡も漸次緩和されかくて齋藤總督の所謂文化政治の徹底する時期を招來するものと信じて疑はない者である

社頭曉

中村兵衛

上の卷

……だ淺い秋藪街道には、殘……が見渡す野邊に亂白く見……み降らずみの、黃昏を凍……に、カサ／＼ご氷る草鞋を踏みつゝ、杖も突かぬ一老……つて來た。……八幡神社に、一寸默禱を……、更に社殿に沿ふて歩み……る。

『お上人樣、御報謝を致し……

『ご式內の石碇に附いた……格子。障子を開けた少女 [illegible]

再び窓は開かれ、服裝こそ窶れたれ、引詰の束髮で、瓜實顏の純な少女の顏は現れた。老僧は近く窓の下に寄つた。

『娘子、失禮ぢやが其許は、何日々々必ず愚僧に報謝されるが、年端も行かぬに、御殊勝なお人ご、窃に感服致して居つた。然るに今其許のお顏を見るご、常にない打沈んだ體、加之も兩眼に一杯、淚の露が宿つて居る。コリヤ何か仔細のある事ご思ふ。何ごお差支なくば、其仔細語つて聞かせては下さるまいか。

物優しく問はれて、少女は耐り切れず、兩の袂を顏に押し當て、忍び泣きの態であつたが、漸く面を上げて、決心の眉を動かした。

『其筵日の御報謝を樂みにして居りましたに、モウ今日限り、此御報謝が出來ないかご存じましたら、つい悲しくなりまして失禮を致しました。

『ナニ今月限り……報謝が出來ぬ……そりや又何ういふ仔細、もそつご詳しく話して下さるまいか。

『それが家の恥ご存じます事で……もう聞いて下さいますな。

『コレ／＼何も彼も言ふご申されたに、今更包み隱す事はなからう。俺は出家の身ゆゑ、秘密は神懸けて他へ洩らすまい。又膝ごも談合ごいふ譬へもあれば話して見なされ。事に依つてはお力にも成らうちやないか。

『御心切なお言葉　そんなら申上げます。私は明朝早く、濱松の町へ賣られて參るのでございます。

再び袂に顏を掩ふのを、老僧は暫すやうに……。

『待たつしやれや、益々合點が行かぬが、身賣りする事は、親御も得心の上でか。

少女は愧づるが如く、羞かむが如く、少時躊躇つたが、漸く口を開いた。

『私は五年前に母が亡くなりまして、父の男手一つに育て上げられましたもの。八つの歲から此離の一里隔てた分教場へ、毎日通學して居りますが、來年三月とは尋常六年を終りましたで、附近の女學校へ入るのを、何より樂みとして居りました。では、濱松のお茶屋へ賣られましては、僅六年の小學校をさへ卒業する事が出來ませず。唯それのみが殘念でございます。

『して身賣りの金高、そりや何程か御存知かの。

『十圓ご聞きました。

『ナニたつた十圓……宜しい、判りました。貴女の阿父さんにお目に懸りませう。心配さつしやるな……で阿父樣はお留守かの。

『もう歸りませう。兎を擊ちに出ましたので……。

『ハヽア殺生を世渡りの、獵人ご見へるの。

『此方へお入り下さいまし。穢苦しうございますが、樞へ何うか……。

油障子の表へ廻つて、圍爐裏へ案內した。

中之卷

オ、阿父さん、お歸りですか。でも降らなくつて可うごさんしたね。

獵式の鐵銃を擔り出して、藁靴を脫ぐ上り框から、榾の方をヂロ／＼見た。それは見馴れぬ老僧が、爐端に約ましげに坐つてゐるからで……。

お糸は銃を梱の腕木に懸け、枝のやうな坐布團を出しながら

『阿父さん、例も御修行にお越しの、お上人樣が被居いますよ。

『オヽさうかい。お坊樣寒うござりますの。俺等朝から晩まで鐵砲擔いで飛廻つても、猫の子一疋出會す。追分で二合半酒飲んだのが自腹。飢じさに走つて戾りましたが、お坊樣も冷たい思ひして、貰ひはタントありますかい。

お糸は上間へ、盃に取つた濁酒の徳利を持つて行つた。

老僧は平和な圓滿な顏に、輕い笑を湛へた。

『御主人、お留守中に邪魔します。寒い中を年寄りが、託鉢に來るのを、慾張りのやうに思はつしやらうが [illegible]

『さうかな。マア待つて下さいよ。腹が減つたで……お糸よ、茶の支度ぢや。アッ燗も漬けたのか。それや氣が利いてるたの……目刺しで可いや肴は……。

榾に大胡坐かいて、盃を手にした。

『お坊樣、一杯何うぢや。

『折角ぢや、馳走になりましよ。

老僧ご獵夫とは、濁酒の獻酬が頻りであつた。老僧は盃を置いた。

『お前の娘子、お糸さんごやらは、明日十圓の金に代へて、濱松へ行くこいふは、それや眞個の事かね。

父はお糸を睨めつけた。

『コラ其座面膳つたのか。內証をべら／＼こ……。

お糸は小さくなつて縮んだ。

『叱んなさるな。可愛さうに！……コレ何で十圓の金が要るのか。お糸さんが亡き母の爲に、日々の報謝したのが、賣られて行けば夫が出來ぬご淚を流してちやつた。俺は其金の用途が聞きたい。

父は吻ご溜息吐いて、娘の顏を凝視めながら、又老僧の顏も……ら、ちぎりの酒を五亂八注ぎ、一息にグッご呷つて、盃を一搖り搖りながら、拉起こらしい笑ひした。

『お坊樣、俺だつて可愛い娘を詮にしたかアねへ。況して婦アが死んでから、男手一つで育てた大事な娘だ。手許は放したかアねへのだが……お坊樣、義理程辛いものはねへなア。

『義理……ハテなア。

『お坊樣だつて、浮世を捨てゝも、坊主仲間の義理はあらう。人間てへものは義理を思はなきやア、犬猫同然だご言ふからなア。俺ア山育ちで、いろはのいの字を右から書くか、左から書くか知らねへが、それだけは死んだ親父や、母親から聞いてゐる。

『成程……夫れはさうぢやらう。

『斯うなつたら、洗ひ浚らひ話して了ひやせう。聞いて下さへやしよ。何を隱さう俺ア一昨年の秋、大病に掛つた事がある。神經痛ごか言ふので、生れて初めて町からお醫者樣呼んで、藥も貰つて注射さやらもした。けごも大層な金が要る。第一此山の谷へ、お醫者樣を連れて來るのに、伸僕ご……使ひご……其上高い診察料に、藥代ごで……お糸も困つたらうが、俺ア寢てゐても、ヂッこしてゐられねへ程、入費の懸るのにやア、ホト／＼弱つて了つたゞア。

話の中に、何時かお糸は爐端へ來て、燥打かんでゐるのであつた。

老僧は何にも言はず、頷くのみで榾の火に、翳した手さへ動かなかつた。

父は家の東の隅を仰いで

『お坊樣、持つべき者は友達だ。俺が一錢の貯へもねへ中、困るのを知つて、あの東坂に住む、ドンドロ坂の茂十さいふ獵人仲間が來て、ヤレ氣の毒な、藥も飲めよ、醫者も呼ぶが可い、軀の爲になら金を惜しむなよ。乃公の母親が死んだ時の、用意の貯い金が十兩ある。此金を費つて置け……ご言つて貸れたは、地獄で佛ご存んで、借りて費つて了つたわ……病氣も三月許りで癒つて了つたわ……茂十は心切者だ。お糸よ恩を忘れるな……で、一時は濟んだが、其十圓は返す事が出來ねへ。今日まで三年越し、何ごかして返してへ返さねや濟まぬご思ひながら、其日暮しに逐はれて、今日まで忘れるこもなしにイヤ忘れちや濟まねへが、其儘になつてるこ今度は其茂十が……急に心臓が惡くなつて、四五日前から大病人になつて了いましたゞア。

下の卷

お糸は下俯向いて沈默。老僧は腕拱いて爐邊に沈默。主人は銚子を振つて、酒を求めるものゝ如く、そして溜息は連續する。

『アヽ一人が恩を返さねや畜生だ。茂十に恩返しするこは此時だご、直に茂十の枕許へ、十圓の金に利息つけて、持つて行つて遣りたいは山々だが、一錢の貯へもねへ中、仕方がねへで……昨日見舞だけに行くご、茂十が言ふにやア、仲の好い同士が斯麼事は言ひたくねへが、今度の病氣で金に困つた。お醫者樣の言はつしやるには、濱松の病院へ入れ。斯麼山の中ぢや養生が出來ぬ。一月懸るものなら、入院すりや一週間で癒る……ご學問の上から諭して下さる。親へは一昨年お主に貸した十圓、氣の毒ながら戾して呉れご云ひやす。俺ア辛い……俺ア眞に辛い……が可しッ、二三日中に戾す、氣を大きく持つて、早く入院して癒すが可い……ご云つて談つたもの、、お見懸けの通り此家の內だけの財產、賣つたつて置いたつて、一圓ご云ふ値打の物はねへ……エヽ、脊に腹は代へらぬ。お糸が色の白いのを見込んで、鐵の豐吉めが、酌婦にしても十圓二十圓は出る。お糸ッ子は朝鮮か、臺灣へでも世話したら、百圓は貸す者があると言つたを思ひ出し、實は其男に賴んで、十圓借りて濱松へ遣り、俺の義理を濟まさうこしました。仔細は斯麼事でござわますよ。

老僧は頷いた。

『解つたが御主人、お糸殿は小學校を卒業して附設の女學校へ入りたい希望ぢやご言うではないか

『ヒエー。

『酌婦は望む所でない。

『ヒエー。

『お前さんは、父の權利で……孝行を娘に强ゆるのか。

『ヒエー。

『舊道德は今用ひられんよ。父母の病氣を癒す爲に、貞操を賣る娼妓になるなごいふ事は、決して孝行には成らんよ。縱令酌婦にせよ、幾月かを束縛される仕事で父は子に孝行を强ゆるこいふは、間違つてゐますぞ。

『ヒエー……ですが背に腹は代へられませんので、ツイ……。

『腹を背に返しなさい。父も個人、孃も個人。個人の爲に個人を犧牲にする事はお前の罪惡だ。

『何の事だか、ちつこも判りません。

『一沒分曉に何を言つても判るまいが、金は十圓愚僧が出す。茂十へ返金しなさい。お糸を犧牲に賣る事は、斷じて愚僧が許さぬ。

『ヒエー。

『怪しからぬ父だ。

『ヒエー。

『此十圓も俺の金ではない。本堂建立の爲に、淨財喜捨を求めて、今日まで俺の預かつた金だ。寺の建築は二年三年後れたつて構はん。目の前に生きて行く人を救ふのが、吾々佛徒の勤めだ。今の宗教家は死佛に勤めて、活佛に努めて居らぬ。……務教育から、補習教育をちやんこしなされ。そして父に强いられぬ子、良人に盲從せぬ妻に仕立て上げなさい。

お糸も父も破れ聲に顏を擧げて、嬉し淚に咽んだ。

[illegible]

六十の坂を越した此老僧の口から、所謂新道德が說かれるこは、人は豫想し得ない所であつた。

三人讃への問話は、いつか雞の聲の上に、村社八幡神社の杜に、紫の色は晴れた曉を顯はした。

今此老僧は遠州一圓、濱松、袋井、中泉さては森町の山の奧まで其名を知られ、天龍川の滔々たる水聲ご共に、秋葉街道の俠僧ごして賞敬の的こなり且操行を謳はれてゐる（終）

社頭

懸賞文藝

課題『朝』（和歌）　尾上柴舟選

はるけくも故國を離れたるさびしさにおのづ早く眼ざめる朝

[illegible]

大いなる光の中を妻ご子ご我ごが歩むこゝちよき朝

[illegible]

アカシヤの實に背立てゝ白々こ風の流るゝ冬の朝かな

すゞしがたくぬくきしごをぬけいづる眼にいたし朝の白雪

鎭南浦　依田弘

朝鮮鎭南浦　勸業果園農場　園主　荒木源之助　勸業果園販賣部　電話一六番

鎭南浦港　米穀商　田上隆之

大阪商船株式會社代理店　合資會社青木組　鎭南浦府三和町　電話長五四　振替口座京城二三五一番

鎭南浦　五島榮藏　電話五番

昌成金鑛々主　岩本直太郎

賀正

南浦材木商會　電話長一五七　振替京城一三三二

鎭南浦郵便局　鎭南浦海事出張所　職員一同

鎭南浦三和町　貿易商　廣元商會　電話二五八番

鎭南浦府三和町　直塚保三　電話一九番

鎭南浦府三和町　米穀雜穀貿易商　合資會社富浦商店　代表社員　富浦福一　電話長一二一番

謹賀新年
大田面協議會員（イロハ順）
今井辰次郎　朴英來　李遠寧　大野與三郎　小田原正計佐　村尾伊勢松　荒川代作　須々木權次郎　末吉定十

謹賀新年
商標　忠
お臺所改造の第一步さ
ふじ忠醬油
御愛用を乞ふ
大田本町一丁目　醸造元　辻謹之助

謹賀新年
品質優良　官鹽　價格低廉
廣梁灣鹽田

賀正
鎭南浦　中島資之

謹賀新年
安東株式商品株式會社所屬仲買人
[illegible]

初鷄

朝鮮の俚言及び傳說に現れた酉に就て

野崎眞三

日本の神代史には天祖天照大神の御代に於いて既に長鳴鷄の事が見え、して酉が史實に現れてゐるが朝鮮では新羅王朝脫解王の九年(約千八百五十年前)に始めて鷄林の傳說として白鷄の現れてゐるのが恐らく朝鮮最初のものであらう兎も角

鷄林八道と

稱する朝鮮であるから鷄に緣が深さうであるが實際は內地と反對に案外鷄に緣が薄いのも面白い事である。然しながら朝鮮の俚言と傳說中鳥類に關したものは決して尠くない自分の知つてゐる俚言の中で鳥類に關するものが約六十ばかりある此中で鷄に關するものが九つある。では何んな鳥類が朝鮮の俚言に現れてゐるかと云ふ事は一面に於て鮮人の生活と鳥類との關係であ

加納鮮銀副總裁試筆

り朝鮮博物學史の一側面とも謂はば謂へよう今此六十の俚言中に現れた

鳥の分類を

して見ると鷄九、鳥雉雀六、鷗五、鷄卵三、鵲鷺三、鳶鴨燕鶴鳳凰二、四十雀鸚鵡鵝の各一及び一般の鳥に關するものが五となり鷄は家禽だけに生活に一番交渉が深い事が判明する而して傳說の方を調べると之はまた鳥に關するものが誠に尠く從つて鷄の傳說なぞは全く數へる程しかない。要するに朝鮮は內地程鳥にも鷄にも緣が深くない

(一)は李朝末期の苛斂誅求に對

(一〇)此座の鳥は天に當る

は鼠が鳴く

(九)此の音樂は鳥が囀る夜、言葉

(八)蛇の蓮か鷄卵の樣だと惜む

(七)腐鷄卵がトキをつくるか

(六)百人か自分か鷄を食ふ

(五)村の鷄が役所に入つた

(四)鷄を食つて鴨の脚を見せる

(三)鷄手羽には必ず鳳凰一羽

(二)中庭を鷄が步く

(一)死んだ鷄にも戶籾を食はす

關する俚言を擧げる

しい次ぎに、鷄、鷄卵及び鳥に

(七)は支那から輸入したものらしい

內地人と全く同然なのも面白い

俚言に就いて

先づ鳥類に關するものから三四面白いものを擧げやう

(一)雉は頭ばかり草にかくす

(二)鳥は飛ぶ程、羽根が落ちる

(三)鳥は十二の啼聲をしてもごろも尠くない

(四)烏は黑くても肉は黑くないの

(五)燕が擇山雛を產んだ年は凶年だ

(六)鷗の子は親鷗をも喰ふ

(七)雁は百年の長壽を保つ

(一)は內地の頭かくして尻かくさぬと同義であるが具體的に云つてあるだけに一寸美しい(二)には因循姑息な一部朝鮮人の心理が見えてゐる(三)鳥の啼く聲が十二あると云ふは新發見であるが

不吉だと感

じた點は

する人民の不平である(三)は美人の惡口(四)は嘘言を平氣な朝鮮人の心理とも見られる(五)は極端なる官尊民卑の觀が現れ(六)は內地の『知らぬが佛』に類するもの(七)は內地の『天に唾する』と同義(八)は姑の嫁イビりにて

青春の美に

對する老人の羨望嫉妬は唐も大和も同じ樣と思はれる(九)は壁に耳ありと全く同義であるが俚言を通じて其民情風俗習慣など仲々面白い

傳說に就いて

白いものであるが此等の俚言を通じて朝鮮人の鷄に關する觀念は家畜として若くは食料としての鷄のみで內地人の如く鷄に關する神秘的觀念は全く無いものと斷言し得るのである

新羅王朴赫世出現の傳說である鷄林の白鷄は傳說の鷄として著明なものである此新羅建國當初の傳說に鷄の居た事には頗る日本味があつて學者たちが朴氏日本人說を主張するも無理からぬ事とも思へる。此他には鷄に關する傳說物語は殆ど無いらしいが鷄卵に關するものは一二ある今其一つを擧げて此稿を終る

不運な人間

に鷄卵にも骨があると云ふ諺の由來であつて傳說と云ふよりは物語かも知れない。昔々家柄の正しい一人の兩班があつた殘酷な運命に虐げられ立派な才能はありながら官職に就けば乾度災難の爲に職を解かれると云ふ具合で失敗ごとに朝夕の煙さへ揚げ兼ねる程な貧窮に陷つてゐた。此有たこ

情ある言葉

と書き附け與へやうと

懷を聞いた知人が時の王樣に奏上したので王樣も氣の毒に思はれ急に任官するの運びとなり御用があり命吊をあたへるのも如何と思はれて思案の末、明日一日南大門を通過の商賈の商品を其の男に賜はる事とした處が明くるを待つて南大門に出掛て商賈を待つて居たが如何した事か何時になつても商賈は一人も來ない午が過ぎ夕方になつても一人も來ない、のでスッカリ落膽してゐたが漸く一人の鷄卵賣りが來たのでシメたッと許り此商賈の商品を王命だからと譯を話し悉く附を示して貰ひ受け我が家に歸ると鷄卵の一つを割つた處が黃味も白味もあらばこそ骨が出たので不思議に思つて更に割れば割つて見たが鷄卵の殼と骨の山が積れたが何一つ得る處が無かつたので此兩班は今更自分の不運なる事を考へて天を仰いで長大息したと

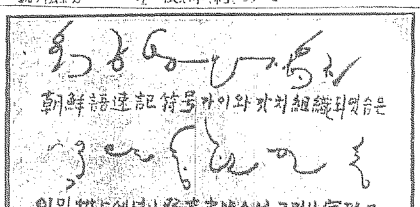
朝鮮語速記術に就て

方 S 生

朝鮮語の速記法を新に作り出さうと云ふ目的を以て私共數人の者が其の研究に着手して以來約一箇年を經過した。そうして昨年五月一先づ朝鮮語速記法の根本の組立を終つた際、本紙上を借りて

其の概要

を發表したが其の後更に之に基づいて速綴法、略記法、略符の制定とか、記號の改良とか云ふ樣なことに關する研究を續け、夫れも此程に至つて略々纏りが付いた。之に依つて私共の企ては――完全なる成功と云ふ所へはまだ／＼前途遼遠であるが――謂はゞ半以上、三分の二方の成功と云ふ所迄到達したのである。夫れは此の事

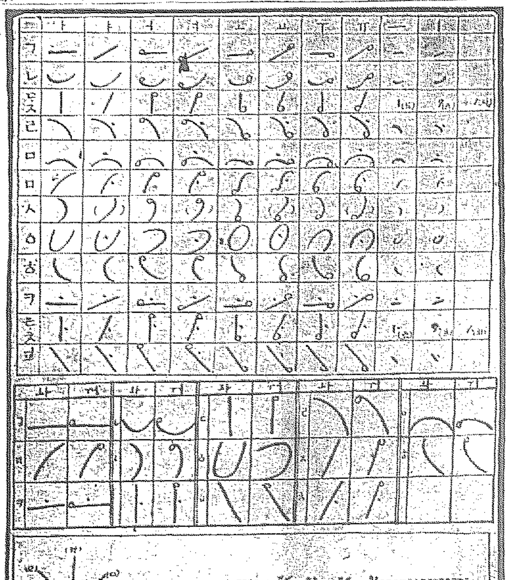


業の完成迄には大體三つの段階を經なければならないからであつて、即ち第一は朝鮮語速記法の基礎となるべき準備的の諸種の調査や研究をしたり

速記の方式

を決定したりなどすることで、第二は夫れに依つて速記法の內容たる記號、速綴法、略記法或は略符と云ふ樣なものを整へることで、第三は實際に應用する爲の練習熟達を

と斯う云ふ工合になるからである。で要するに今回再び紙上を借りたのは、此の朝鮮語速記法の編成事業の所謂『第二段』の終りに就て、其の報告と云つた樣な意味からである。とは云ふものゝ吾々は何分總てのことに就て微弱極まる者ではあるし、又實際之が爲に非常に多くの時間、勞力、費用を費した譯でもない從つて世間に對して誇り得る樣な立派なものは出來なかつたのであるけれども、兎に角一應之を公表することにした。但此處には唯記號を揭げたに過ぎないが、もう少し私共の研究が進んだならば其際取纏めて印刷物にでもして見たいと思つて居る。



大田春日町二丁目 大田石灰製造所

大田 儒城溫泉

大田本町二丁目 米穀商 鶴川商店 電話長一八番

大田本町 南部京平商店 電話四五番 電略(ナ)

大田春日町 建具一切人車駐車場 福崎茂市 電話三四番

大田春日町一丁目 土木建築請負業 安藤清江 電話一五四番

賀正

大田飲食店組合

大田春日町 大田皮革株式會社 電話長一三四番

京城永樂町二丁目 京城競賣株式會社 電話七八四番

大田春日町一丁目 小橋自轉車店 電話長一五番

大田春日町 薪炭 岡商店 電話一〇一番

京仁線永登浦驛前 大塚醬油釀造所 電話一〇番

全北裡里驛前 裡里運送合資會社 運送組合(イロハ順) 電話一五七番 加茂運送店 電話一〇四番 栗原運送店 電話一〇六番

全北大場村 侯爵細川家 朝鮮農場

諸雜貨卸商 朝鮮京城本町二丁目 森久商店 電話長二五〇番 振替口座京城二一番 電信略號モ(モリ) 支店所在地 平壤、新義州

人蔘エキス本舖 朝鮮高麗人蔘直取引 其他朝鮮特產品貿易商 朝鮮京城本町 津村兄弟商會 電話一四八〇番 一八七〇番 振替京城三五一一番 京城四四〇番

龍山漢江通 土木建築請負業 服部房吉 電話五五六番

大田警察署長 長谷川豊治 電話一四五番

大田土木所長 松田一雄

大田本町 大田ゴム商會 電話長一〇一番

大田典獄 横山藤一郎

土木建築請負業 須々木俊次郎 電話一四八番

全北全州 寫眞業 向陽館

全北金堤邑 大正旅館

安東縣市場通 書籍文具 文榮堂 電話三七番

下關市西細江町 錦いか本舖

下關市長 賀正 李家隆介

鎭南浦三和町 伊丹運送店

鎭南浦 相洋雜貨商 鬼頭商店 電話長一四四番

鎭南浦 加藤精米所

鎭南浦後浦里 米雜穀委託販賣 大津幾三郎 日本生命保險代理店 電話長四九番

鎭南浦 醬油味噌 藤本釀造所 電話長二七番

鎭南浦三和町 綿糸綿布卸 雜貨 鈴木種一商店 電話一一番

鎭南浦 野田良二

鎭南浦水產株式會社

鎭南浦府三和町 朝鮮米穀輸出 京城精米製造 雜貨 宮本浩輔 電話長一〇〇番 六六 電略(三又)(ミ)

京城本町二丁目 御料理 清香園 北村清太郎 電話一二七七番

羅紗綿絹麻織物輸出入商 株式會社 睦商會 京城府南大門通二丁目 電話長一五番 振替口座京城一二一三番 睦商會出張所 大連市大山通 電話一八八番 振替口座一八八六番

京城支店 東亞蠶糸株式會社 京城出張所 春川出張所

釜山府牧ノ島 宮本造船所 電話長一一番

京釜線龜浦 朝鮮纖維工業所

釜山絕影島洲岬 中村造船所 電話二九番

朝鮮興業株式會社倉庫部 伊藤倉庫株式會社 釜山共同倉庫株式會社

謹賀新年 京城府樂園洞九九 朝鮮書藝麗派 藝星會

恭賀新正 朝鮮書藝麗派藝星會 總務 金心畝

京城南山町二丁目(綠泉別莊內) 會席御料理 花月別莊 電話三六九番

釜山驛前 常設活動寫眞 株式會社 國際館

大田材木商組合(姓名いろは順) 大田春日町 濱長直 電話二〇八番 大田春日町 上田豊治 大田本町 富士平 電話長六三番 大田本町 新原 電話長一三一番

大田學校組合評議員(いろは順) 島山源一 塚原義親 中村宇次郎 成尾多吉 永野常治 藤井廣太郎 安宅松太郎 佐藤兵太 須々木權次郎

謹賀新年 价川輕便鐵道 事務所(平安南道軍隅里)

謹賀新年 京釜線鳥致院 柴田定助 電話五番

謹賀新年 京釜線鳥致院 前田組

賀正 1921

浦項 梅本庄太郎

海陸運送業 新義州榮町 西村組 電話二一番

安東縣三番通五丁目 大東洋行 電話四四五番

新義州榮町 北方商會 電話一五〇番

新義州府 錦織足千代

安東縣四番通三丁目 野村號 電話九三番

元山府上里二洞一〇五番 貿易商 元山貿易株式會社 電話三三一番

元山府銘石洞二二六 醸造部 合成釀酒所 電話五四七番

仁川本町四丁目 米雜穀委托 販賣輸出商 北嶋五郎商店 電話一七一番 二七二番 電話（キ）又ハ（キタ）

京城大和町一丁目 辯護士、特許辯理士 松本正寛 電話一〇五四番

諸機械船舶材機械類 工業用器具製作並修理 原動機其他機械設計据付 [illegible] 安東縣四番通五丁目 安崎鐵工所 電話二八九番 電略（ミ）又は（マサ）

大邱府東城町 丸嶋商店

大邱 東洋杞柳株式會社

慶尚北道 蠶種業組合

慶尚北道 果物同業組合

慶尚北道廳 勸業課一同

大邱府大和町 小林金物店

大邱郵便局長 成田勝虎

明けましておめでたふ 宮川本町 いろは樓 富勇 喜美勇 秀丸 音勇 若奴

京城太平通一丁目五八 貿易商 駿府商會 電話二六一番 二六二番

京城太平通一丁目 鮮人向陶磁器商 三浦幸一郎商店 電話一六六九番 振替京城二三二四番

內外果實青物卸専業 委託問屋 松原筆藏商店 京城南大門通り三丁目 電略（マ）長電話一一八三 振替口座京城一一八三

京城本町二丁目 屋號 井上履物店 電話一三七五番

咸興東亞蠶絲出張所 岩田敏太郎

麻裏護謨雪駄 製造販賣星印 護謨靴特約店 仁川宮町一丁目十四番地 吉田商店 電略（ヨシ）

仁川龍里 福西製粉所 電話三六番

京城競賣株式會社

京城南大門驛前 笑福旅館 電話一五五一番 ◎懇切、正直、勉強◎

京城本町一丁目 砂糖諸粉卸小賣 澁谷商店 電話七七一番

京城本町一丁目 和洋紙 帳簿 文房具 印刷 北內紙店 電話一一五一番 一〇二一番

清州清水町 吉原治三郎

清州憲兵隊 宗安理作 小田金平

清州本町 雜貨メリヤス商 中村格一

清州本町 新古衣類商 日向松次郎

清州本町 印章彫刻 天賞堂 根來金次郎

咸興福富町 西洋御料理 西洋軒

黃金町シンガーミシン會社 主任 足立盛太郎 京城黃金町二丁九八 電話一五四二番

京城本町一丁目 和洋建築金物商 井原京城支店 電話八三六番 本店 安東縣 電話三三番 支店 奉天 電話七一一番

京城永樂町二丁目 請負染物 洗濯 龜屋染工場 電話一五八五番

鎭南浦公立商工學校長 佐藤松治郎

謹賀新年 大邱府田町 魚吉事 大和 電話三十五番

大邱東本町 世良工務所

慶尚北道第三部長 新庄祐治郎

浦項 佐々木悦藏

浦項 迎日灣漁業組合

浦項 中谷竹三郎

慶北 迎日郡廳員一同

慶尚北道廳 高等官一同

大邱繰棉工場

謹賀新年 大邱府村上町 料亭 明石 電話五十七番

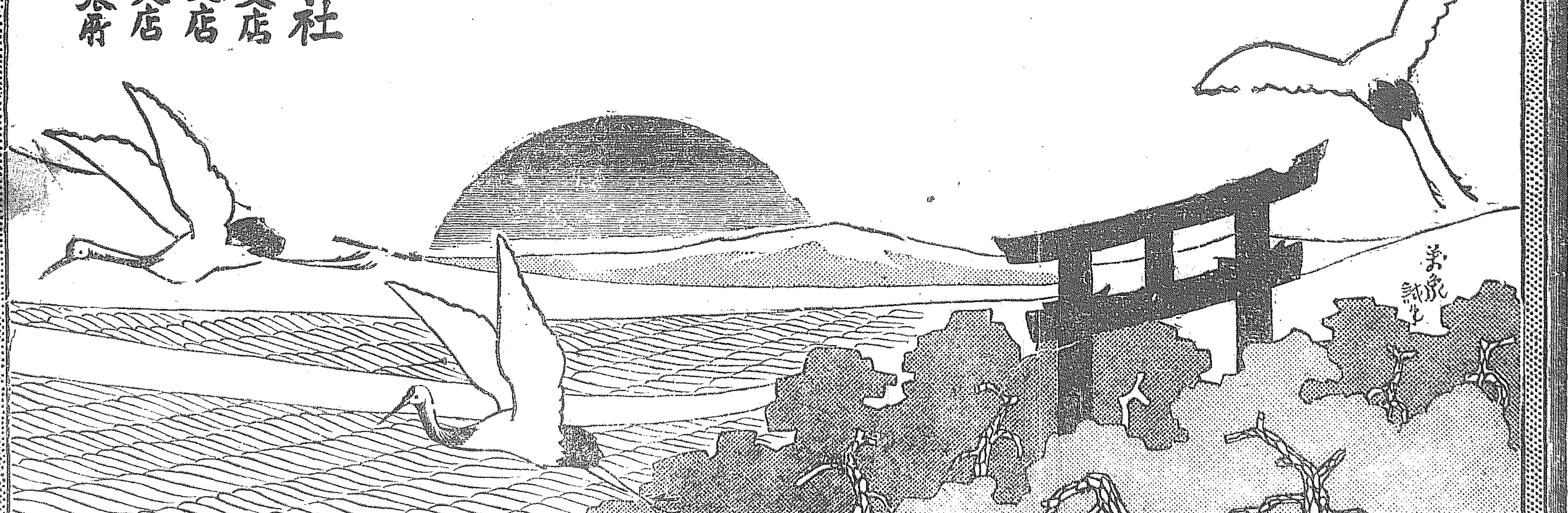
賀正

茲に聖代の新春を迎へ皆様の御清福を祈奉る

福助足袋の需要高であります。決して驚く數ではありませんが、足袋界では新記錄なのです。然も夫れは一に御愛顧皆様の御援助の御庇に外ならないので御座います。由來福助が萬人向きの足袋として好評あるは唯『體裁の美』を指した外面的の價値ばかりでなく、更に『丈夫で温い』といふ内面的の價値と相俟つて動かぬ美點を持つてゐるからで御座います。足袋が生活上の必需品である以上、生理上風儀上斯うした完全なる足袋が全國の皆様に御愛用を蒙る事は、結局文明史的に貴い意義を有してゐる事と思ふ時唯々感激して已まないので御座います。冀くば本年も一層の御愛顧を賜はる樣、偏に御願申上げます。

大正辛酉一月元旦

福助足袋株式會社
東京支店
大阪支店
京都支店
九州出張所



慶安太平記

第六十席

小金井芦洲講演

――生さぬ仲で醜に邪慳にしてゐたんだけれども、倅てかういふことになつて見ると義理もあります、涙を流して其れへ來て 丹『何といふことです丹三郎、假ひお父さんが何と被仰つても、其所はお前が了簡を入れ替ねて御意見に從はねばなりませぬ、勘當如何にも承知をしたの結構だのと言ふのは何と言ふ口の利きやうです、サアお詫をして 父『お前樂て、置きなさい、お前が兎角に義理があるから執りなすに由つて本人が増長をして可かぬ、家を出て有とあらゆる苦勞をしてから始めて目がさめるのだ、サア早く何所へなりとも勝手に出て往け、けれども何んだぞ斷つて置くが、親の光は七光り、此の播州の明石に居れば戸村丹南の伜だから人が若旦那とか若先生とか尊敬をして居るが此家を出て見ろ、途中で逢つて貴樣に言葉も交はす者もない、右を見ても左を見ても他人ばかり、寝るに家もなく喰ふに食もなくなつて、お父上全く私の心得違ひ故御勘辨下さいませなどと人を以て詫びて來ても、再び此の家の地幅は蹈せぬから其の積りで居れ 丹『ハイ、それは勿論でございます。男子志を立て、郷關を出づるからには事成らざれば死すとも再び戻つては參りませぬ、北は松前福山、南は筑紫薩摩潟の果てまでも皆な自分の家でございます、ナーニ致る所青山あり、世の中の事を言ふ者はそれ程案じたものでもございませぬ 父『減らざる口を利くな大白痴、サア早く出て行け 丹『ハイ、永く御厄介になりました 青年の身の無頓着、有らうとか正月の元旦といふのにお互ひに言ひ爭つて止むる繼母の手を振切り播州の明石をプイと飛出した、出は出たけれども倅て何處へ行かうと言ふ的がない 丹『ハーテナ、何うしたものだらう、緣なき衆生は度し難し木を伐るには斧、川を渡るには船を用ゐなければならぬ、何か寄るところがなかつた日にやア何うにも身を立てる譯に行かぬが取敢ず何處へ行かう』暫く腕をくんで考へて居たが不圖思ひ當つたのが元自分の家に仲間をして居た傳兵衛といふ者が播州姫路の郷里に戻つて今では立派に御領主本多大内記樣に人入業を致して若狹屋傳兵衛、大晦年始には始終手紙なぞを寄越して消息を聞きに來る、此れを思ひ當つた、徹夜飛行迄に任して同國の姫路を指して飛込んで來ました、明石から見ると姫路は又一層に結構な所で御城下などの樣子が全然で違ふ、況して松の內のことで常よりは賑やかでございます 丹『コレ〜〜一寸物を尋ねるがのう、姫路の二階屋町といふのは何方だ ○『二階屋町といふたら是れから二丁程上手です 丹『ハア左樣か』通り掛りの者に道を教はつて其儘やつて參りました二階屋町 丹『エ、一寸尋ねるが、此二階屋町に桂庵をして居る若狹屋傳兵衛といふ者がある筈ぢやが、存じて居るならば教へて貰ひたい △『若狹屋傳兵衛と言ふなら向ふで、あの表に大きな暖簾が掛つて居る格子の立つて居る 丹『オ、左樣か』食はず呑まずにやつて來たので腹はペコ〜〜、懐中には一文もなし、思ひ込んだ所まで來て、サア若狹屋が失れだと言はれて見ると一層に飢じさを感じて來た

ひもじさと寒さと戀と比ぶれ
ばはつかしながらひもじさが
先き

何がつらいと言つて世の中に空腹位つらいものはない 丹『ヤア何うも腹がへつたな……許せよ』折から主人の傳兵衛は他出して留守、女房のお卷 卷『イヤお出で遊ばしまし』ヒョイと見ると色の眞黑な骨組逞しい立派な若侍でござります。

與太吟

編輯局の誰彼へ… 壽夫

○

矢橋さんおめでたう！
大きな身體に從軍服著けて
造作の大きい眼、鼻、ロー
どう見てもロシヤ人。
和製セミヨノフとは蓋し適評
ポケットの中には年から年中
ブラッシュを潛ませて
夜店のステッキのやうな、
疎らな髭の毛を撫つける。
醉へば唇應用で……
プロペラーの爆音！
お、アタマン、ヤバシ！
今年もまた──
哀れな散髪の頭髮を
拜見させていただきます。

○

北川さんおめでたう！
平素は春の海のやうに
温順しくつてゐらつしやるが
一杯きこしめせば
凩のやうに騒々しい！
醉へば義太夫を唸つて
聽者を惱ますこと一方ならず
糠味噌が腐るだの──
催眠術だのと評するのは、
蓋し同情が無さ過ぎる！
殊に口の形ちが──
伸縮自在なのと
顔面表情が千變萬化するので
謹んで……茲に
表情義太夫の泰斗……と
尊稱を奉る！
今年もまた──
淨瑠璃のやうに單調な
義太夫を聞かせて頂きます！

川柳

劍花坊選

○ 仁川 紅短冊
カンニング先生そろり〜
ポケットに先生ほどの錢の音
評『ほど』が利いてゐます。ちよつと面白いと思ひます
遠足の先生握り飯で濟み
評 これが私のよくいふ『共通川柳』です。紅短冊君ほどの人が、こんな句を作つてはいけません
てんかんを持餘してる女教員

○ 滲町 勝野生
感心をしても先生首をまげ

○ 平南 如牛
竹庵を先生にするこわい事
評 佳句

○ 京城 白楽坊
先生と云はれて照ひつませ

○ 京城 貞子
先生を鬼門にしてる惡太郎

○ 仁川 夜叉王
奥さんと背中合せに教へてる
評 好寫生、佳句

一月六日

舊暦十一月廿八日 ▲木曜日 ▲己巳 ▲六白 ▲晦劍成 ▲次引 ▲斗宿 ▲定

▼六白▲濁らず積極の來る事ある日唯眞面目にさへ守らば安全
▼七赤▲手順よく物事整ふ日なるも調子に乗り過れば失敗す
▼八白▲欣快の日起業開店求職結婚其他女子の獨立を謀るに妙
▼九紫▲不意に邪魔の這入る日不平不滿を云ふは禁物盗難用心
▼一白▲至極上首尾の日待ち設けた事に吉報を齎すやも知れず
▼二黑▲急がずとも望む所までは達すべき日由なき心遣ひ無用
▼三碧▲不快の日我に過失なくとも恐まれ易し兎角諦めが第一
▼四綠▲冷靜なれば自然に發展し片合點して思はぬ損失を招く
▼五黃▲中庸を得て片寄らされば利ある日遠くへの旅行等は凶

新年文藝

元山 植田 紫鳥
冬の陽はつめたく照りて霜枯れの木の葉散りこむ湖の朝かな

京城 中村 百姓
暉りつゝたく山の山腹を日は昇るなり元旦の朝

○
子より來し年賀狀など佛壇にあげて老母の朝つとめすも

雞井驛 名嶋 浪夫
○
大つ陽のかげうるはしく年たてど大地は靜ましろなり
○
悲しみも慾ひもわすれ此朝心しづかに屠蘇をし飲むも
○
春立てど年はかへれど双親の惱をげれば旅にし逝ふ

光州 久我 思秋
道のべのささら小川に小魚どもあまたならびて春日浴みなり
○

京城 城田 山翠
芹摘めばひひろと啼きて行きし鳥無等の山は雪積りせり
○

京城 木村 巴東
思出の夢よりさめて戸をくれど杜鵑に春の雨ふる

京城
朝來啼く小鳥は神の御使か太古に似たる森の靜けさ

順川 熊谷わたる
頰に觸る潮風のゑりのびろうども心にうれし如月の朝

雞井 名島 浪夫
ゆつくりと獨り朝陽にひたりなれば身も魂も溶けゆく心地
○
麗らかに朝陽の照れば盛棋の響まだらに解けて滴り落つも

東萊 窪田紅葉草
猶月の弱き光りに打ぬれてそゞろに道を一人歩めり

南川 山口 鞆子
かにかくに我等二人も生きてしどつくづく妻にみいりたる朝

仁川 岡本 獸郎
元朝のこゝろとなりて見るものか今おごそかにのぼる日輪
○
新らしき春は來りぬ閉されしわがこゝろ今なごらんとする

撫順 玉木波留男
朝早み雨戸を繰れば母が棲むひんがしの空ほのに明しも

馬山 武永 正人
新潮のひたひた寄する渚に立ち鴨鑑つ人も見ゆる朝かな

龍山 百瀨 千尋
冬のあさけ我夏服のほころびにもろ手をあてゝ勤めに出づる

龍山 安河内はた子
喜び家に通ふ子等をも出し終り靜ふきゐる朝のたのしき

河東 高橋美世子
元旦のみそらあふぎて病む妹のかたけきこゑに歌ひ唄ふも

京城 智尾京酒家
物皆はまた靜かなる宮の邊に長鳴鳥のきこゆるなり

仁川 吉田 よし
若水くみつゝかはす僕等の今朝の背葉の消く樂しも

京城 對馬 深溪
大空に登れる心地高嶺より日の出を見れば太古に似たり

新義州 三浦吉之助
朝戸あけて若水くむと出でゝみればど川厚く氷しにけり

仁川の出初式

仁川警察署にては恒例に依り四日午前九時より仁川消防出動式……前に整列しある機械器具の點檢……て表彰式を行ひ終つて府廳正門……水龍は天に冲するの勢ひを示し……殊に敏速なる動作は瞬時にして全く……妙技を演じて直に大神宮に參拜……例年の如く勢ひよく各町を……

謹賀新禧

輸出入貿易 商倉庫業 安東取引所仲買店 安東縣五番通九丁目 齊藤進商店 電話日本一七八番 日五四九番 日長五六二番 中國二六五號

安東縣江岸通 安東木材株式會社 電話一〇八番

株式會社安東株式商品取引所仲買人 滿洲安東縣市場通 原田市松商店 電話四十番 七十四番 四〇四番 八十六番 一二二番 二七〇番

新義州本町 宮澤運送店

新義州驛前 米田運送店 電話一四二番

新義州榮町 永井寛龍 電話二七〇番

新義州本町 大谷精米所 電話七番

新義州 下駄古版製造販賣 福永商會

新義州驛前 渡部運送店

新義州榮町一丁目 東嶋鐵工所 電話三〇番

新義州常盤町 和洋雜貨 渡邊支店 電話五八番

新義州常盤町 新義州酒造株式會社 電話二二番 振替京城八〇二三番

平北新義州 平北農蠶株式會社 電話二五一番 電話二三一番 電略ヘ又八〇〇ヘ番

新義州眞砂町 土木建築 佐野岩吉

全州郡高山 高山金融組合 理事 上田道太郎

京城蓬萊町四ノ六七 東亞牧場 電話五二番

京城府龍山漢江通（電氣會社向イ） 建築鑄製瓦 諸板金並貢金看板 田中工作所 田中卯一 電話八二四番

京城南大門外 古賀福太郎 電話長二四〇番 電話長七一八番

京釜線鳥致院 重松旅館 電話一九番

京釜線鳥致院 米穀貿易 岩滿商店 電話二六番

京釜線鳥致院 内科小兒科産婦人科 醫師 勳六等 佐々木八治郎

京釜線鳥致院 米雜穀委託販賣 田中陣平商店 電話五三番

大田本町一丁目 内藤氏雄 電話長八番

大田本町二丁目 織物商 扇商店 電話長六一番

大田 農場 和光園 電話二四九番

大田電氣株式會社長 古谷虎雄

大田春日町 福田呉服店 電話一六二番

大田中學校 關本幸太郎 安藤文郎 堀政助

料理 仁川山手町 食道樂別莊 仁川宮町 食道樂本店

大田春日町一丁目 土木建築請負 長澤貫一郎

宣川本町 運送業 佐々木運送店 宣川特産改良陶器木炭販賣

宣川本町 洋和雜貨石炭木材商 有門商店 振替口座京城一七四八番

宣川本町 海東旅館

江陵 李宅奎

江陵 吉野麟至

江陵 渡邊勇次郎

江陵學校組合 管理者 吉田由松 塚原作四郎 中原喜助 赤田保太郎 井出龜

江陵酒造組合

江陵酒造組合理事兼專務 角田五三郎

金物商 波多野繁

雜貨商 貫田方介商店

江陵 醬油味噌製造販賣 堀口覺兵衛

江陵 御料理 淸乃家

江陵 土木請負業 勝田義市

江陵 藥草栽培業 一貫園

江陵 御料理 富士家

兼二浦精米株式會社

全北金堤邑 阿部農場 奥村竹三郎

全北金堤邑 東洋拓殖株式會社金堤支店 支店長 安井亮

沙里院運輸倉庫會社

京釜線鳥致院 米穀貿易商 辻川喜助 電話九番

京釜線鳥致院 鳥致院松函 石油組合

大田宿屋組合（いろは順） 千歳旅館 筑紫旅館 大田館 對島屋旅館 中川旅館 笹山旅館

釜山郵便局長 小島源藏
釜山郵便局 池田魁 森田省三 戸島眞男 林泰五郎 渡邊弘太郎

全州相生町 全州遊廓組合

大田本町二丁目 中尾酒造場 電話長五四番

長春東斜街 和登商行 營業科目 北滿吉林各木材、各種電話材料、電燈機械材料、鐵路建築材料代辨各國五金鐵料、汽車、各種水龍機器、機器鐵工廠、各種機器油電話取付設計工事迅速可致候 電話長四七〇番 電話九八番 振替口座大連一九五番 哈爾賓支店、吉林支店

長春驛前 材木賣買並ニ製材業 滿洲木材株式會社 電話長五九三番

龍山漢江通 株式會社十八銀行新龍山支店 電話五五〇番
龍山元町二丁目 株式會社十八銀行龍山出張所 電話一八番

大正製藥株式會社 朝鮮支店

彌生町貸座敷業組合

京城長谷川町 朝鮮製藥合資會社 電話一三〇九番

長春取引所 信託株式會社 事務所 電話三二〇番 事務社宅一八〇番 支配人宅三二〇〇番

滿洲長春 石炭貿易商 大昌洋行長春支店 發信略號タイ又ハ（タイシ） 電話長五八二、五三九、三九四

仁川本町四丁目 船具塗料諸油金物商 村谷吉藏本店 電話長五十六番 電信略號（ム） 振替口座京城五九番
京城南大門通り五丁目 京城出張所 電話三七一番

仲買廢業

續出模樣

昨年末の紙上に報じたる如く京取信託組合の資金融通方法內規を無視し買方擁護にすぎ天日事務の態度專橫にして公平を失せりこて憤慨する仲買人連の辭表は續々提出されん模樣あり現に舊臘三十一日金齡龍氏廢業屆けを出せるを先驅こし四日委員長田中友吉委員古閑豊記兩氏の廢業あり引續き天日氏等の態度如何により五六名の廢業者出づるもの、如く有田長氏等主ごして交渉中なり

市場側の態度

市場こしては信託組合の處置必ずしも失當にあらずこの見解にて右に對する不平仲買の廢業は止むを得ずこの見地に立つゝあり前途の形勢樂觀し難し

新春市況

初荷を送り出せる後の市況は居餘の香ほり僅に漂ふ程度に閑散を極め居れるが大體昨年末に於て一搬商人は財勢不況の大勢より打算して冬物の如き概して仕入手控への狀況に至りし處中には大節季に接近して案外の賣れ行きを見たる錯覺に內地仕入先に打電して品揃へをなしたる向きもあり而して此等商人こ雖も商品は概して先安を見越せるさ共に一巡賣盡したる場合こて今後冬物仕入は當用口の需用に應ずる程度に止め寧ろ春衣の仕込の有利なるを信じ此方面の相場顧會を開始し居れり

株式（後會）

前場は穩健

[illegible]

今週中來週中の二本に分けたるか

[illegible]

京取底堅し

京取は昨年末の受渡しに於て買方窮し受株の捌きに困じ居れりとの噂ありしも立會へは存外相場はシッカリにて二十二圓六十錢より三圓までを往來し安値にはまとまりし買物ひそめるやに噂されたり蓋し今日の相場は年末の高値より小三圓方の低落にて何れかと云へば下值寂しき振合あり弱氣は三十圓割れを云爲しつゝあれど相場の前途は果して如何唯仲買の廢業續出の模樣につき失敗の材料により一崩れあるやも期し難し

堅實株買氣

[illegible]

京取紛訂悲觀

京取信託組合の運用に對する仲買人の不平は利害問題なからみ居るため前途の成行き樂觀し難し既に田中委員長古閑委員金剛龍三氏の廢業あり尙ほ鐵川の模樣にて此の現狀は市場賣買の激減さなるにあらずやさ氣づかはる殊に田中の如き大手の退場は影響輕からざるべしこて悲觀せる向もありき

仁取株氣丈

仁取株は後會百四十五圓より七十錢さ伸びたるが昨年末の波瀾に際し安値の買物は仁川の某有力筋にさらはれたりこの事にて賣物薄の模樣ありココ買物出づれば相場はヂリ高を免れざらんか

京取立會變更

京取市場は四日より立會方法を變更したり卽ち從來は十五日を一區域こしゐたるも新方法は今週中來週中の二本を立て毎週土曜後場を以て締切り翌月曜受渡しをなす事こなる由

立會改正ご材料

四日より立會方法を變更して今週中さなせしか右の結果乘り替へ可能さなり思惑はやりよくたれご然し手數料高きため

乘替又乘替への續行

又手數料損さなるこつき大して材料こなしがたからん

主要株步み值段

[illegible]

鮮七總會

朝鮮土地建物株式會社にては來る二十日京城公會堂に於て定時株主總會開催九年度下半期營業報告貸借對照表等の承認を求むべく配當は多分前期同樣一割見當なるべし

商況

○日銀銀況　三十日現在左千圓單位

發行高　一、四五八、六七一
正貨準備　二、二三四、九二八〇
發行餘力　九八、三九〇
貸出高　二六五、七四四

○鮮銀券日報　卅一日現在左の如し

發行高　一一四、〇三四　六二〇
正貨準備　[illegible]
限外發行　六四、一〇二、一七一

財界閑話

明けましてお芽出たう本年も相變らず御愛顧のほどを願ひます▲四日は東京京城市場に行つても會社に行つても商店に行つても、京取市場のみは例の仲買人の廢業▲信託組合の運用の不平に對する不平から…[illegible]

京城現株市場出來値

[illegible]

本日乙部の商內

[illegible]

初相場懸賞七日發表す

銀塊小馳るむ

米綿昂騰す

東京現株特電

[illegible]

大阪株式特電

[illegible]

安東株式特電

[illegible]

米況

仁川期米初會

[illegible]

京城穀物延取引

[illegible]

賣買差引殘

[illegible]

大豆

[illegible]

前場商內

[illegible]

仁川正米市場

[illegible]

釜山正米特電

[illegible]

群山正米特電

[illegible]

東京期米特電

[illegible]

大阪期米特電

[illegible]

第六回決算報告

貸借對照表

[illegible]

朝鮮製紙會社

賀正　理髮業　富士軒

正月の胃

飲み過ぎ喰ひ過ぎ二日酔みれい理想的のクスリ

胃病　良藥　胃活

創刊號　小說倶樂部

權威ある代表的創作を見よ

新年號

金魚　上司小劍
仙人ご薔薇の蕾　沖野岩三郎
二都物語　池田大伍
鹿子木夫人　相馬泰三
こゝも心　大泉黑石
炭坑の人々　白鳥省吾
□創作評論　西川勉
□新作民謠　野口雨情
□文藝新聞
□文士漫畫
□文壇消息
詩　上司小劍
劇　民衆劇場
創作小說一等當選作
◇女問者　前田曙山
◇鷄の讐討　石井香夢
◇侯爵の犯罪
◇沈默の塔
定價六十錢　東京牛込　民衆文藝社

京城永樂町二丁目　入院隨意　酒井婦人病院　酒井一郎

大日本人造肥料株式會社　肥料朝鮮一手販賣
一、過燐酸
一、完全肥料
一、其他各種肥料
右は精々勉强可仕候間多少に不拘御用命仰付被下度尚多數御用命の節は御一報次第店員罷出で御相談可申上候
釜山埋立新町　米穀肥料商　豐田福太郎商店　電話長一七番　振替三四三八番

古本高價買入　群書堂書店
ほねつぎ　柔術道場
測量機械修繕
小店員入用
そば粉　大塚製粉所
京日案內
謹賀新年　高松商會　高松清太
米雜穀貿易　南藤馬
安東縣市場通六丁目　ペンキ商　吉川槌太郎
資本金五千萬圓　株式會社第一銀行京城支店　支配人　佐々木勇之助　藤森忠一郎

舶來人形ミルク

朝鮮特賣景品抽籤結果發表▲▲

弊社景品附特賣に就きては格別の御引立を蒙り難有御禮申上候右當籤番號嚴正なる抽籤の結果左記の通りに相成候間此段謹告仕候也

特等	一等	二等	三等	四等	
23	94	134	135	500	
	250	241	155	509	
	342	244	169	521	
	404	254	170	524	
	484	271	187	529	
		94	191	530	
		300	205	542	
		305	230		
		316	252		
		427	256		
		461	282		
		469	289		
		523	287		
		536	299		
			308		
			321		
			334		
			354		
			355		
			367		
			382		
			407		
			410		
			422		
			450		
			460		
			475		
			478		
			481		
			492		
			493		

景品種類

景品券二千二百枚ニ對ス

特等　金貳拾五圓也（商品券）　四本
壹等　金拾圓也（同右）　貳拾本
貳等　金五圓也（同右）　四拾本
參等　金貳圓也（同右）　八拾本
四等　金壹圓也（同右）　貳百本
五等　金五拾錢也　殘り全部

▲景品券はイ、ロ、ハ、ニ、の四組として各組五百五拾枚を發行し當籤番號は各組共通に適用せらるべきものに御座候
▲景品引換期間は大正十年二月二十八日迄以後は無効。引替は從來の御買附先又は直接左記弊社へ御申込被下度候

大正九年十二月廿日
橫濱市山下町二十五番地
ネッスル及アングロスヰス煉乳會社

ペルペット石鹼

大正拾年の新春を迎へ恭く需要者諸君子の健康ご萬福を祝賀し奉る。

尙は本年は一層……ペルペット石鹼の御使用に因り諸君子の健康を增し、且つ其美皮膚の荒を防ぎ、を益々發揮し給ふよう奉希上候　敬具

元旦

製造元　日本リーバーブラザース株式會社　神戶

日本郵船出帆

[illegible]

共同汽船出帆

[illegible]

尼崎汽船出帆

[illegible]

五光汽船出帆

[illegible]

朝鮮郵船定期

[illegible]

大阪商船出帆

[illegible]

曙（あけぼの）

徳田秋聲 作　（挿畫）近藤紫雲 畫

第三十四回

湯泉へ（4）

浴後の絢子は、ゆつたりした氣持になつて、鏡臺の前に坐りながら暫らく化粧に餘念がなかつた。部屋は奇麗に掃除されて開放した窓から初めいた風がそよ〳〵と流れ込んでゐた。朝の氣分は何となく彼女の氣持を緊張させてゐた

しかし、然うしてゐる中にも實家の財政のことや、お須磨のことを思出すと、不意に彼女の明るい心が曇り〳〵するのであつた

『でも、なるやうにしかならない』然う心に思ひながら』絢子は見る〳〵美しくなつて行く自分の顔に、うつとりと見入つたりした

輕い朝飯が濟んでから、絢子は寢不足の腦頭を懈く感じながら、何となく氣まで重々しくさせてゐた

『お孃さま、また鯉を見てまゐりませう。そして、麩をやりませうね』お磯が然う言つて、貞子を連れ出してからは、絢子は獨り部屋の眞ん中に膝を崩して何を考へるともなくぼんやりしてゐた

すると。そこへ女中が入口へ來て手をついた

『奧樣、白井さんと被仰る方があの『些』とお目にかゝりたいと被仰つてゞすけど、如何いたしませうですか。些と伺つて見てくれと被仰るのですが……』

絢子ははつと思つたが、わざと落ち着いた樣子をして『あの私に？』と聞いた

『はあ』女中は眞面目に答へた

『どちらに在つしやるの』

『こちらの、あのう、別の新館の方にゐらしやる方でございます』

『然う』絢子は些と頷いて直ぐ『ぢや、どうぞ』と應へた

不意に向ふから訪ねられたので、彼の女は不安なやうな氣がした。しかし白井の意思を誤解してはならないと考へたので、早速然う返辭をしたのであつた

女中が引返して行くと、絢子は急いでそこらを取片付けた。そして些と姿見の前へ行つて衣紋を繕つたり、髮の容を直したりした。何となくそは〳〵するやうな氣持を、強て、付けるやうにして、彼女は廊下の跫音に聽き耳を澄してゐた

やがて、白井は女中に案内されて絢子の前に押し出しの好い姿を現した

『やあ』彼は部屋の入口で、嫣然と笑つて聲をかけた

『さあどうぞ、づつと此方へ』絢子はちらりと、深みのある目色で其顔を見ると、心持ち顔を赧らめた

白井は書生の頃とは左まで變らぬ顔容をしてゐた。身には米琉のやうな給に、鐵無地の絽の羽織を着てゐた。入ると、から何處かしら威嚴が加はりて來たことを、絢子は厭迫的に感じた。女中は座布團を直して、客へ侑めると直ぐ出て行つた

『實に久し振でしたね』

『はあ、ほんと久闊でございましたね』

一別以來の改まつた挨拶を交すと、二人は初めて泌々と晴れやかな顔を見合せた

『あなたが當地にお出でのとを昨夜始めて知つたのですが、途中ではあり些と樣子がお變りでしたからね、若しかそれでも人違いぢやないかと思つて、今朝宿の者に訊ねて見たところが然うだと云ふんでね、それでは些とお目にかゝらうと然う思ひましてね』

『さやうでございましたか』絢子は硬くなつて、伏目がちに『私も何ですか、貴方によく似た方だと然う思ひましたけれど、御樣子が隨分變つてゐらつしやるものですから、聲もおかけしませんで失禮いたしました』

『いゝゑ』と白井は袂から卷莨を出しながら『どつか、お體が惡くでも……』

『はあ、い、ゝゑ何に少し肋膜を痛めてをりましたけれども、もう宜しいんでございますの』と絢子は些と顔を上げて、淋しく笑つた

新春雜唫

順安　かね子
朝鮮に雲の行衛を見送れる酒の狂女の醉かなしも

徳島市　大谷稔
想かなる女心を君に見ぬサフランの香のつよき朝あけ

京城　中尾擲蕩
色街の晨は巷の廊井に明け追羽子すなる舗廊に靠る

迦川　白桃園
朝戸あけうちみる空のたゞ中に寒氣の雲のなほもれむれる

鎭南浦　哀之介
整ひさつ無き蒼空を雁の群番して飛べり初秋の朝

賀州　落原柴水
移り住みて覗き荒野な開かんと思ひたときて朝戸を出づ

東京市　有田徳太郎
わが窓に今朝も晴れたる山の見ゆわれな見まもるものゝ如くに

釜山　朱雀瑞子
かろ〳〵とこの朝早く街ゆくは絆纏の人晴の人

金海　廣瀨鷗舟
わたつみの底にちらばる青石の上なる〻春のあかるさ

○

龍山　岡本鳥石
若々と流るゝ春の日光のなかにうさ〳〵眠るたましひ

仁川　田邊蝶仙
何物か心の底にそさふれて喜びやまず元旦の朝

鎭南浦　足羽京之介
うちわたす街の柳の青く芽をふきて嬉しき初春の朝

京城　本庄新村
何處よりか草の香ゆるく流れ來ぬ朝靄ふかき六月の丘

忠北　神田花心
拜ろがみて消しきあまり久しくも双手垂れたる初日の出かな

龍山　稲目五三郎
かなしき〻元日の朝しみ〴〵と吾が來し跡を顧みる時

奉天　入江のぼる
新しき年のおさわけ兵士等は營庭出でゝひがしな拜む

平壌　菅原初江
御社の松の木の間をくりて行く神女もたふさし元日の朝

竹泉
朝つゆなやさして詩くほゝゑみぬよき白合は歌ふ如くに

なみもなき迎日灣の潟頭に初日をむ我とこま人

演藝案內

日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店

非一町 **大正館** 電話八七三

きる一月元旦より新春特別大興行 ◎寫眞劇『國自轉車』の實況

新派 日活向島派山本嘉野一派新撮影 悲劇『小さき靴』長尺 **春駒** 全六卷　父母を知らず放浪の少年の苦學を可憐な青年の苦學を主人公とせる悲劇 パラマウント名映畫

情劇 **女は魔性** 全五卷　きき若女なりされど又汝は撓映すべき弱力盤き魔術界の一大奇すとも稱す 日活第二部長市川姉妹大飛躍

前篇 **岩見重太郎** 全六卷　雌伏中雄偉大の抱負を以てキネマ界に投じたる姉識優が絶大の努力と凡の奮闘は茲に連續大活劇として本篇の完成を告げたる大雄篇重太郎幼年時代より道場破り迄（つゞき）は ◎元旦より九日迄徹夜開館 ◎日より不興行中從來發行の招待券御斷

黄金町 **黄金館** 電話一六二七

一月元旦よりキネマ界レコード破り二大連續劇同時上場

△神秘的連續大活劇 エドウィン・ステヴンス氏主演 紐育市民が戰慄恐怖の淵に陷れし魔人カブラカンは勇敢無比なるケンブ警官の爲めに第一の根據地を襲撃再び第二の根據地の大事件を惹起す

△奇蹟的大活劇 **世界の眼** 全三十卷の內每週四卷に上場 絶世の美姫クレオパトラの秘寶を手に入れた者は不思議にも惡く殺されて了ふ世にも珍らしい奇蹟的のこの犯罪

△現代劇派 **緣** 全五卷　吉杉老楓多くこの間塞れに阪路な見又渡谷な望み斷崖絶壁の下に流る河水に朝日輝き自然の風景に富める一村落美しい花が咲く 中村吉藏氏傑作

△大問題の喜劇 **井伊大老** 全五卷

本町五丁目電車終點 **浪花座** 電話二三二八番・二七四九番

大阪歌舞伎 嵐信藏一座 中村玉六八

○毎日午後五時開演 本町五丁目電車終點 **浪花座** 電話二三二八番・二七四九番

本町一丁目 **喜樂館** 電話五九七番　番組改 一月一日より新年特別三大映畫封切 有樂 古代コンスタンチン湖旅行 日活新派向島派特作品 滑稽女の智惠

悲劇 **相合傘** 全五卷　名優井河合一派當り狂言 男女の如く涙ぐましい若き春雨の中なる戀の悶着 連續冒險猛獸大活劇

虎の足跡 全卌一卷　劇は興味の波瀾を現はして見る人を手に汗を握らしむる 說明者 小石涼花 石田旭花 誘演 大阪日日新聞連載小說 連續活劇にらみ鬼しの大傑作 **尾張三郎丸** 全十貳卷の內 談三景の一月後天の稱立を背景上場 熱演 して猛壯松之助扇太郎にて完成 る豪然の前絶なる身は尾張大納言の若 生れた三郎丸が神の宿し子と唱へさせ 彼逸年に頼な武將の下に追はれ苦難を 狹れ比な遊進劇 す

電話二六八五番 本町七丁目 **壽館** 一番目笑劇 愛の結晶 二番目喜劇 粹な日那 三番目滑稽劇 玉の輿 四番目喜劇 影法師

電話一六〇番 治町 **浪花館** 正月一日より開演 ◎橘家圓三郎一行來る、△遊芸三遊亭　播磨家小扇 橘家圓三、遊亭圓若、三遊亭圓遊、喬家千代、立花家扇遊、八木節　藝を、富家扇三

本町五丁目 電車終點 **浪花座** 電話二三二八番

當る一月五日 大阪歌舞伎・嵐信藏一座 三の替り 十八番狂言 玉藤前 三國傳來 切狂言 長志長五五 八幡引まで

新年號

オフセツト十色刷口繪　私の好な芝居の人々

鐵木淸方 山村耕花 上村松園 栗原玉葉 木谷千種 水島爾保布 伊東深水 山口草平 森田久 山田玉雄 益田 其他三色刷三色コロタイプ及寫眞五十餘頁

歌舞伎國人物誌　世にも稀なるお姫様　役者がお姫様になる時……久保田米齋　中村雀右衞門

鳴神の雲の絶間姫……河竹繁俊
日高川の淸姫……灰野庄平
二十四孝の八重垣姫……三宅周太郎
倉前の祇園の時姫……山崎紫紅
玉藻の前……本山荻舟
鎌倉三代記の時姫……田村西男
新薄雪の薄雪姫……石割松太郎
金閣寺の雪姫……邦枝完二

俳優人氣分布圖

京都 仙臺 名古屋 秋田 靜岡 函館 岐阜 岡山 高知 小樽 德島 札幌 長野 長崎 水戶 下關 金澤 松江

大正九年 劇壇の總勘定　五十三次芝居見立繪・水島爾保布　芝居合評會

其他執筆者　長田秀雄 秋田雨雀 久保田万太郎 島村民藏 池田大伍 坪內士行 岡村柿紅(?) 岡本綺堂 本根默庵

俳優の見たる興行主　田村成義……菊五郎　山本久三郎……幸四郎　大谷竹次郎……左團次　小泉丑治……彥三郎　白井松次郎……延若

演藝史に現はれた戀の挿話　伊原靑々園

現代俳優餘技展覽會

茶の湯 中村歌右衞門　義太夫 村田かく子　三味線 尾上榮三郎　謠曲 阪東三津五郎　清元 市川猿之助　小唄 中村吉右衞門　樂器 森りつ子　馬術 尾上梅幸　謠曲 中村魁車　鳴物 片岡我童　繪畫 中村福助

漫畫國の春　近藤浩一路　細木原靑起　淸水對岳坊　池部鈞　中西立頃

芝居見たまゝ　淨瑠璃新曲 毛谷村 井植佐平　帝劇狂言 平將門 竹柴秀一　浪花座狂言 天下茶屋 松長照夫

彩色 人情本　火事は冷えた燒芋、何の事だといふなせの問ひに、偶然火の見櫓に降りる出會ひ頭に忽然艶麗な美人と取換はす言葉、作者の獨壇上

泉鏡花

新演藝

定價壹圓五拾錢　東京玄文社發行　振替東京一四一七七

TRADE 白鶴 MARK

Brewer and Dealer of the Japanese Sake

"HAKUTSURU".

KANO GOMEI KAISHA,
NO. 22, YOKOBORI HIGASHIKU,
OSAKA.

CABLE ADDRESS.
"Hakutsuru Osaka."
TELS. NO. 2670.
3678.
676.
678.

新年の御慶を目出度申上ます
本年も不相變御用願ます

京城府市場通四丁目
御料理 仕出し 名物三福壽司 電話四七四番

謹賀新年
京城明治町二丁目
株式現物商 北村友一郎 電話六七三番
本年も不相變御引立願上候

▲名古屋より朝鮮及南滿洲
「▼北鮮行貨物輸送に就て!!」

▲朝鮮南滿洲行は關釜連絡船を下し鐵道輸送よりは朝鮮郵船命令航路に接續通し船荷證を發行す! 北鮮は名古屋敦賀間鐵道敦賀弊社は特選貨物の取扱に就ては十有餘年間經驗を有し取扱の親切と敏速なることは內鮮各位の御愛顧を享ける所以にして各位の御同情の賜と深く感謝する處に有之候揭題の地行貨物は名古屋より通し船荷證を發行し名古屋に於て貨物引換證を發行仕り取扱料相當額にて取扱可仕候間御用命の節は御申越の程偏に奉願上候

尙當市に於ける商品値段確實なる商品等御取引上必要なる要項を御依頼により調査御報告可仕候間御遠慮なく御照會被成下度候

名古屋市中區笹島町貳丁目拾五番地（名古屋驛前）

◎鐵道省公認運送取扱店 ◎當會社の創立は明治十九年なり

運搬合資會社

資本金壹千萬圓
頭取 安田善三郎
京城本町一丁目
株式會社 百三十銀行京城支店
電話長五八番 振替貯金京城一九四番
銀行一般の業務悉く御便利に御取扱申候
爲換取組先は內地各方面並朝鮮樞要の地に有

賀正

本年も不相變家庭料理の美味と滋養を增進すべく味の素の御愛用偏に奉願候

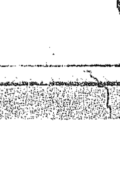
最新調味料

味の素

株式會社 鈴木商店
東京 大阪 名古屋
上海 紐育 倫敦

活々く
若々く

さして生きて行かねばならぬ婦人の前に其營養飲料として葡萄酒赤玉あり皮膚の生彩も筋肉の豐麗も唯赤玉の一杯にある!を知り給へ



類似品多し㊟赤玉と御指定を乞ふ

赤玉ポートワイン